

2022 年度自己点検・評価について（報告）

全学自己点検・評価委員長

本学は、2022 年度に短期大学部が認証評価を受審し、適合の認定を受けた。早急に改善を要すると判断される事項の指摘はなかったが、向上・充実のための課題が2点あった。そこで、2022 年度の自己点検・評価は、短大認証評価において、指摘を受けた事項を点検項目とした。以下、その結果を記す。

1、建学の精神と教育の効果

短大認証評価において、向上・充実のための課題に、各学科の学習成果の達成度が測れる定量的指標の必要性が指摘されている。また、本学の学習成果は、卒業認定・学位授与方針に基づいたものであるが、卒業認定・学位授与方針とは別に設定するよう求められている。

まず、学習成果を測る指標であるが、2021 年度に各学科で DP の項目のうち少なくとも1項目の学習成果を測る指標を検討し、2022 年度にその指標を用いて学習成果の測定を試みることで、測定指標の改善を図っている。生活文化学科では、学習成果の定量的指標を3つ作成している。①教養教育の学習成果は「教養教育ルーブリック」、②「主体性・コミュニケーション力・気づく力・協働する力・考える力」の獲得は、インターンシップにおける自己評価と受け入れ企業による評価をまとめた「インターンシップ評価基礎データ」、③「実務的技能の獲得」を示す指標である資格の取得状況は、「学習成果（資格取得）」である。②インターンシップの自己評価及び実習先評価をまとめた「インターンシップ評価基礎データ」は、学生のレポート集である「インターンシップ報告書」と合わせることで、各自の「発見」や「向上意欲」の具体的内容を確認することができるため、今後も継続していく。③資格取得は、単位を取得あるいは認定試験に合格しながら取得を辞退する例があったため、この事態の評価を行うこと、資格の意義を正確に伝えること、認定料の説明を複数回行うことなどの改善を行う。また、①「教養教育ルーブリック」も内容を見直していく。幼児教育学科は、学習成果の獲得状況測定データとして、GPA、単位取得率、学位取得率、就職率、学生生活アンケート、卒業生へのアンケートを用いている。2022 年度には新たに学習成果の各学生の学習成果取得状況を把握するため、学位授与方針に基づいたルーブリックを作成し、年1回、学生本人にアンケートを manaba で実施することにした。アンケート結果は学生ごとにレーダーチャートで可視化され、学習成果がどの程度達成されているかを学生本人、教員ともに把握可能となる。2022 度は2年コース・3年コースの1年次生に試験的に実施しており、2023 年度は各学生と面談をする際に用いる予定である。

そして、学習成果の設定であるが、指摘通り卒業認定・学位授与方針と別に定めていく。

2、教育資源と財的資源

短大認証評価では、「財務状況について、学校法人全体及び短期大学部門で過去3年間の経常収支が支出超過となっており、運用資産に比べて外部負債が多い。今後、経営改善計画を着実に実行し、財務体質の改善を図ることが強く求められる。」との指摘を受けている。本学では、2017年度から経常収支差額がマイナスの状態が続いており、収支差額を黒字化するために、学校法人園田学園経営改善計画に記したとおり、収入面では学生確保、支出面では人件費の削減等（経費削減及び人員の適正化等）を同時並行で進めている。